

博 士 後 期 課 程

学 位 申 請 の 手 引

博士（工学）

博士（理学）

博士（学術）

鹿 児 島 大 学 大 学 院

理 工 学 研 究 科

目 次

課程修了による学位申請から学位取得まで	1
論文提出による学位申請から学位取得まで	5
様式（記入例）	8

課程修了による学位申請から学位取得まで

1 学位授与を申請することができる者

課程修了による学位を申請することができる者は、下記の条件のいずれかを満たしている者である。

(1) 後期課程に3年以上在学し、12単位(ナノ構造先端材料工学専攻にあっては、14単位)以上を修得しているか又は当該年度未までに修得する見込みがあると主指導教員が認め、かつ専攻ゼミナールで学位授与申請の許可を得ていること。

(2) 優れた研究業績を上げた者については、次に掲げる年数以上後期課程に在学し、12単位(ナノ構造先端材料工学専攻にあっては、14単位)以上を修得しているか又は修得する見込みがあると主指導教員が認め、かつ専攻ゼミナールで学位授与申請の許可を得ていること。以下この条件を満たす者を「早期修了予定者」という。

博士前期課程又は修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含み3年以上在学する者

博士前期課程又は修士課程において優れた業績を上げ、2年未満の在学期間で修了した者にあつては当該課程における在学期間を含み3年以上在学する者

修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が入学した場合にあつては、1年以上在学する者

(3) 後期課程に3年以上在学し、12単位(ナノ構造先端材料工学専攻にあっては、14単位)以上を修得の上、必要な研究指導を受けて退学した者については、退学後1年を経過せず、かつ専攻ゼミナールに相当するものが行われ、学位授与申請の許可を得ていること。以下、この条件を満たす者を「単位取得退学者」という。

2 論文の予備審査

学位授与の申請をしようとする者は、次の書類を主指導教員の承認を得て、大学院係を経由して研究科長に提出し、予備審査を受けなければならない。

(1) 提出書類及び部数

予備審査申請書(別記様式第1号)	1部
論文目録(別記様式第2号)	5部
学位論文の草稿(A4版横書きとし、和文又は英文とする。)	5部
学位論文の要旨(別記様式第3号及び第4号)(A4版横書きとし、和文及び英文とする。)	..	各5部

(備考)(1) 早期修了を希望する場合は、個人調書(別記様式第16号)、推薦書(別記様式第17号)を添付すること。

(2) 記述に当たっては、「(3) 予備審査申請書類の作成要領」に従うこと。

、 、 の書類の提出部数は5部となっていますが、大学院係に1部提出し、4部は指導教員へ提出してください。

(2) 予備審査の申請の時期

上記書類を提出する時期は、原則として第3年次の10月の指定した期日までとする。ただし、早期修了予定者、3年を超えて在学する者及び単位取得退学者にあつては、4月又は10月の指定した期日までとする。

当該年度の日程については、理工学研究科教務関係行事予定表(理工学研究科ホームページ及び掲示)を参照すること。

(3) 予備審査申請書類の作成要領

1) 各書類共通事項

学位論文題目が日本語の場合は、題目の下に()を付して英訳を併記すること。また、学位論文題目が英語の場合は、同様に()を付して和訳を併記すること。

提出する書類が2部以上となるものは、複写により作成してもよい。

捺印箇所には、各書類とも必要部数に同一の印鑑で直接朱肉を用いて捺印する。ただし、外国人で印鑑を所有していない場合は、署名でよいものとする。

2) 予備審査申請書

別記様式第1号の記入例に準じて作成する。審査を希望する博士の専攻分野は、博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)のいずれかとする。

3) 論文目録

別記様式第2号の記入例に準じて作成すること。報告番号欄は、「理工研第 号」と記載する。

学位論文に直接関係のある学術論文を主論文とする。主論文は以下の5つに分類して記載する。

- (a) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した出版公表済み(掲載決定済みを含む)の原著論文
- (b) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した 出版公表済み(掲載決定済みを含む)の Letter 等
- (c) full paper で審査される国際会議の Proceedings に掲載された原著論文
- (d) 上記以外の出版公表済み(掲載決定済みを含む)の論文
- (e) 投稿中の論文

なお、翻訳した論文は、原著論文と同じ番号にダッシュを付け、各分類のところに記載する。また各論文と学位論文における各章との関係についても記載する。

学位論文の内容とは直接関係のない内容のものであるが、学位論文審査上の参考になる学術論文を参考論文とする。参考論文は、上記(a)、(b)、(c)、(d)、(e)の5つに分類して記載する。なお、**参考論文がない場合には「なし」と記載する。**

注) 主論文が共著の場合は、次の要件を満たすこと。

申請者以外の共著者全員が、過去及び将来において、いかなる学位申請の主論文として使用しないものであること。

申請者の学位申請の主論文として使用することについて、共著者全員の承諾を得ていること。

4) 学位論文の草稿

学位論文の草稿は、学位論文の申請に値する十分な内容を備えていることは云うまでもないが、詳しい内容が準備できている場合にはその原稿、又はA4版20枚程度で学位論文の内容を十分明らかにした(学位論文の目次、各章ごとの概要が記述された)ものとする。

学位論文の草稿を英文で記述しようとする場合は、指導教員に十分な指導を受けること。

印刷字体は、活字、タイプライター又はワードプロセッサ等による印字とすることが望ましい。手書きによる場合は楷書で丁寧に書くこと。

5) 学位論文の要旨

学位論文の要旨は、学位論文の内容を要約して示すものである。和文及び英文の要旨を提出しなければならない。

和文要旨は、A4版横書きとし、2,000字程度にまとめること(別記様式第3号の記入例を参照)。

英文要旨は、A4版横書きとし、800語程度にシングルスペースでまとめる(別記様式第4号の記入例を参照)。

図表は必要最小限にとどめ、図表、化学記号等は、明瞭に書く。

3 学位授与の申請

予備審査で学位授与の申請が許可された者は、6ヶ月以内に次の書類を主指導教員の承認を得て、大学院係を経由して研究科長に提出する。

(1) 提出書類及び部数

学位授与申請書（別記様式第5号 - A又はB）	1部
論文目録（別記様式第2号）	5部
学位論文（A4版横書きとし、和文又は英文とする。）	5部
学位論文の要旨（別記様式第3号及び第4号）（A4版横書きとし、和文及び英文とする。）	各5部
履歴書（別記様式第6号）	1部

（備考）（a）記述に当たっては、「(3) 学位授与申請書類の作成要領」に従うこと。

（b）学位論文は、申請時は仮綴じでもよい。

、 、 の書類の提出部数は5部となっていますが、大学院に1部提出し、4部は指導教員へ提出してください。また、上記提出書類の他、学位判定委員会で回覧しますので、指定した期日までに学位論文6部（フラットファイルに綴じたもの）を大学院係へ提出してください。

(2) 学位授与の申請時期

上記書類を提出する時期は、原則として第3年次の12月の指定した期日までとする。ただし、早期修了予定者と3年を超えて在学する者及び単位取得退学者にあっては、原則として6月又は12月の指定した期日までとする。

当該年度の日程については、理工学研究科教務関係行事予定表（理工学研究科ホームページ及び掲示）を参照すること。

(3) 学位授与申請書類の作成要領

1) 各書類共通事項

学位論文題目が日本語の場合は、題目の下に（ ）を付して英訳を併記すること。また、学位論文題目が英語の場合は、同様に（ ）を付して和訳を併記すること。

提出する書類が2部以上となるものは、複写により作成してもよい。

捺印箇所には、各書類とも必要部数に同一の印鑑で直接朱肉を用いて捺印する。ただし、外国人で印鑑を所有していない場合は、署名でよいものとする。

2) 学位授与申請書

第3年次に在学する者と3年を超えて在学する者及び早期修了予定者は別記様式第5号 - A、単位取得退学者は別記様式第5号 - Bの記入例に準じて作成する。

博士の専攻分野は、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）のいずれかとする。

3) 論文目録

2(3)-3)の論文目録(p.2)に基づいて作成する。

4) 学位論文

学位論文は、A4版横書きとし、**学位授与の日の前日までに印刷製本し、3部提出されなければならない。**学位論文は、図書館における供閲等を考慮した印刷製本とする。なお、印刷に代えて複写によるものでもよいが、正誤表の添付は認めない。

印刷字体は活字、タイプライター又はワードプロセッサ - 等による印字とすることが望ましい。手書きによる場合は楷書で丁寧に書くこと。

印刷製本の際の学位論文の表紙の作成例（図1(p.4)参照）

5) 学位論文の要旨

2(3)-5) 学位論文の要旨(p.2)に基づいて作成する。

6) 履歴書

履歴書は、別記様式第6号の記入例に準じて作成する。

報告番号欄は、「理工研第 号」と記載する。

氏名は、戸籍のとおり記載する。

本籍の欄は、日本人にあっては都道府県のみ記載し、外国人にあっては国籍を記載する。

現住所とは、住民票に記載されている住所をいう。団地名、宿舍名及び番号なども記載する。

学歴欄は、原則として大学卒業以降について記載する。

職歴欄は、常勤の職にある者は、その勤務先、職名を順を追って記載する。ただし、非常勤の職であっても特に教育・研究に関するものについては、記載することが望ましい。職歴がない場合には、「なし」と記載する。

研究歴は、学位審査の参考になるとされる事項（研究課題、研修、学術調査、学術奨励金に関するものなど）について、事項別に記載する。研究歴がない場合には、「なし」と記載する。

日付は、申請日とする。

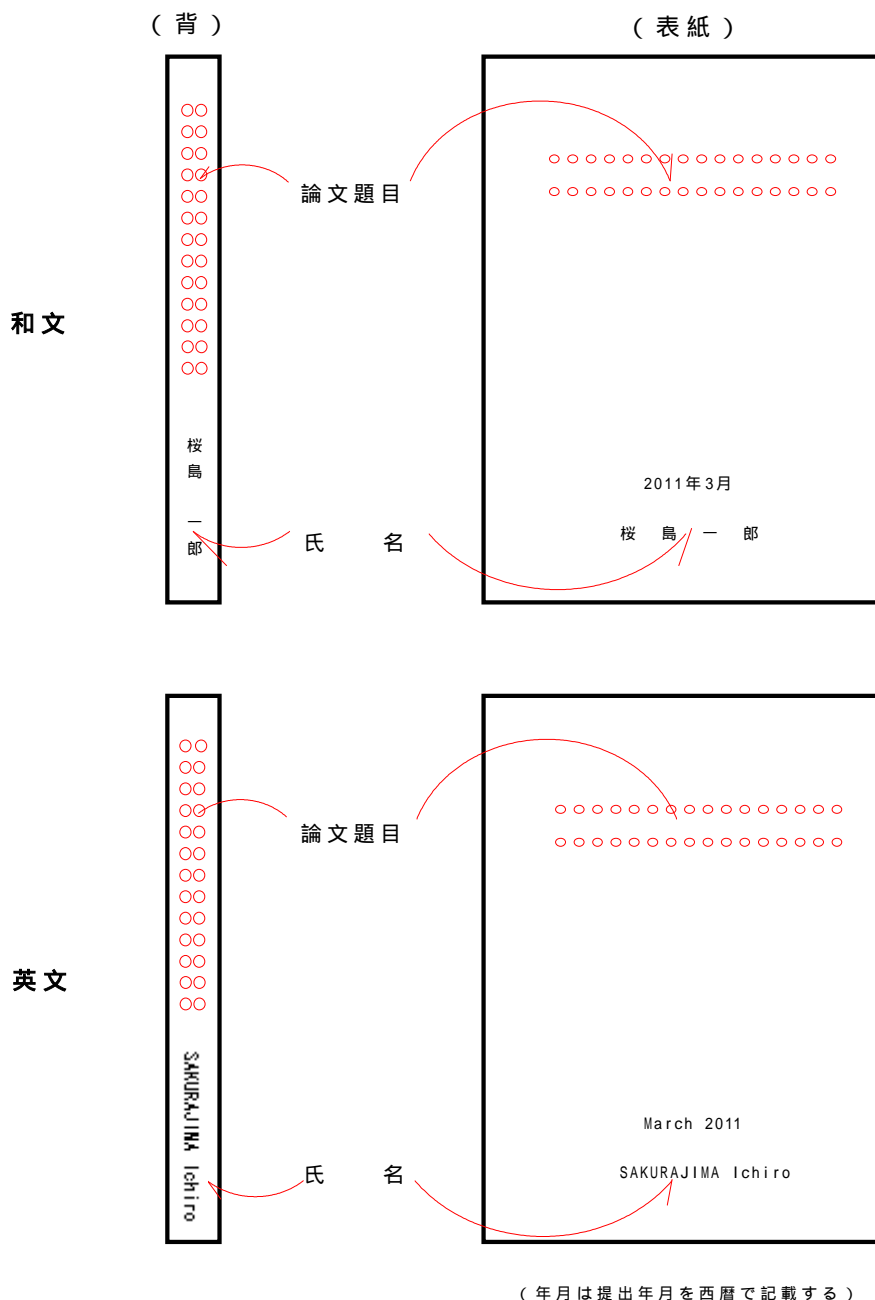


図1 . 印刷製本の際の学位論文の表紙の作成例

論文提出による学位申請から学位取得まで

鹿児島大学学位規則第5条第2項の規定に基づき博士の学位授与の申請をしようとする場合は、大学院理工学研究科博士後期課程の学位に関する取扱内規等によるほか、この申請の手引により所定の手続きを行う。

1 学位授与を申請することができる者

- ・ 博士後期課程に3年以上在学し、鹿児島大学大学院学則第39条第3項に規定する単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け退学した者。
- ・ 大学卒業後7年以上又は本研究科若しくは他大学大学院の博士前期課程（修士課程）修了後4年以上の研究歴を有する者。
- ・ 上記以外の者で、10年以上の研究歴を有する者。

2 論文の予備審査

- ・ 学位授与の申請をしようとする者は、論文内容に関連のある研究分野の研究科指導教員1名に世話教員としての承諾を得るものである。
- ・ 申請者は、世話教員の承認を得て、次の書類を大学院係を經由して研究科長に提出し、予備審査を受けなければならない。

(1) 提出書類及び部数

予備審査申請書（別記様式第7号）	1部
論文目録（別記様式第2号）	5部
学位論文の草稿（A4版横書きとし、和文又は英文とする。）	5部
学位論文の要旨（別記様式第3号及び第4号）（A4版横書きとし、和文及び英文とする）	..	各5部
最終学歴の卒業又は修了証明書	1部
履歴書（別記様式第6号）	1部

記述に当たっては、「(3) 予備審査申請書類の作成要領」に従うこと。

、 、 の書類の提出部数は5部となっていますが、大学院係に1部提出し、4部は指導教員へ提出してください。

(2) 予備審査の申請は、随時受け付ける。

(3) 予備審査申請書類の作成要領

1) 各書類共通事項

学位論文題目が日本語の場合は、題目の下に（ ）を付して英訳を併記すること。また、学位論文題目が英語の場合は、同様に和訳を併記すること。

提出する書類が2部以上となるものは、複写により作成してもよい。

捺印箇所には、各書類とも必要部数に同一の印鑑で直接朱肉を用いて捺印すること。ただし、外国人で印鑑を所有していない者は署名でよい。

2) 予備審査申請書

別記様式第7号の記入例に準じて作成する。審査を希望する博士の専攻分野は、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）のいずれかとする

3) 論文目録

別記様式第2号の記入例に準じて作成すること。報告番号欄は、「理工論第 号」と記載する。学位論文に直接関係のある学術論文を主論文とする。主論文は以下の4つに分類して記載する。

- (a) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した出版公表済み（掲載決定済みを含む）の原著論文

- (b) 審査付きの学会誌又はこれに準ずる学術雑誌に発表した出版公表済み（掲載決定済みを含む）の Letter 等
- (c) full paper で審査される国際会議の Proceedings に掲載された原著論文
- (d) 上記以外の出版公表済み（掲載決定済みを含む）の論文

なお翻訳した論文は、原著論文と同じ番号にダッシュを付け、各分類のところに記載する。また各論文と学位論文における各章との関係についても記載すること。

学位論文の内容とは直接関係のない内容のものであるが、学位論文審査上の参考になる学術論文を参考論文とする。参考論文は、上記と同様に4つに分類して記載すること。なお、参考論文がない場合には、「なし」と記載する。

注）主論文が共著の場合は、次の要件を満たすこと。

申請者以外の共著者全員が、過去及び将来において、いかなる学位申請の主論文として使用しないものであること。

申請者の学位申請の主論文として使用することについて、共著者全員の承諾を得ていること。

4) 学位論文の草稿

学位論文の草稿は、学位論文の申請に値する十分な内容を備えていることが必要である。印刷字体は、活字、タイプライター又はワードプロセッサ等による印字とすることが望ましい。手書きによる場合は楷書で丁寧に書く。

5) 学位論文の要旨

学位論文の要旨は、学位の申請に値するものであることを要約して示すものである。和文及び英文の要旨を提出しなければならない。

和文要旨は、A4版横書きとし、2,000字程度にまとめること（別記様式第3号の記入例を参照）。

英文要旨は、A4版横書きとし、800語程度にシングルスペースでまとめること（別記様式第4号の記入例を参照）。

図表は必要最小限にとどめ、図表、化学記号等は、明瞭に書く。

6) 履歴書

履歴書は、別記様式第6号の記入例に準じて作成すること。

報告番号欄は、「理工論第 号」と記載する。

氏名は、戸籍のとおり記載する。

本籍は、都道府県のみ記載する。（外国人は国籍を記載すること。）

現住所とは、住民票に記載されている住所をいう。団地名、宿舍名及び番号なども記載する。

学歴欄は、原則として大学卒業以降について記載する。

職歴欄は、常勤の職についてその勤務先、職名を順を追って記載する。

ただし、

- ・非常勤の職であっても、特に教育・研究に関するものについては、記載することが望ましい。職歴がない場合には、「なし」と記載する。
- ・研究歴は、学位審査の参考になるとされる事項（研究課題、研修、学術調査、学術奨励金に関するものなど）について、事項別に記載すること。研究歴がない場合には、「なし」と記載する。
- ・日付は、申請日とする。

3 学位授与の申請

予備審査で学位授与の申請が許可された者は、1年以内に次の書類を世話教員の承認を得て、大学院係を経由して研究科長に提出する。

(1) 提出書類及び部数等

学位授与申請書（別記様式第8号）	1部
論文目録（別記様式第2号）	5部
学位論文（A4版横書きとし、和文又は英文とする。）	5部
学位論文の要旨（A4版横書きとし、和文及び英文とする。）（別記様式第3号及び第4号）	各5部
最終学歴の卒業又は修了証明書	1部
履歴書（別記様式第6号）	1部
学位論文審査料		

、 、 の書類の提出部数は5部となっていますが、大学院に1部提出し、4部は指導教員へ提出してください。また、上記提出書類の他、学位判定委員会で回覧しますので、指定した期日までに学位論文6部（フラットファイルに綴じたもの）を大学院係へ提出してください。

(2) 学位授与の申請は、随時受け付けるが、学位判定会議は、年4回（6、9、12、3月）開催される。

(3) 学位授与申請書類作成要領

1) 各書類共通事項

学位論文題目が日本語の場合は、題目の下に（ ）を付して英訳を併記すること。また、学位論文題目が英語の場合は、同様に和訳を併記すること。

提出する書類が2部以上となるものは、複写により作成してもよい。

捺印箇所には、各書類とも必要部数に同一の印鑑で直接朱肉を用いて捺印すること。ただし、外国人で印鑑を所有していない者は署名でよい。

2) 学位授与申請書

別記様式第8号の記入例に準じて作成すること。

博士の専攻分野は、博士（工学）、博士（理学）、博士（学術）のいずれかとする。

3) 論文目録

2(3)-3) 論文目録（p.5）に同じ。

4) 学位論文

学位論文は、A4版横書きとし、学位授与の日の前日までに印刷製本し、3部提出しなければならない。学位論文は、図書館における供閲等を考慮した永久保存に耐えるような印刷製本とする。

なお、印刷に代えて複写によるものでもよいが、正誤表の添付は認めない。

印刷字体は活字、タイプライタ又はワードプロセッサ等による印字とすることが望ましい。手書きによる場合は楷書で丁寧に書くこと。

印刷製本の際の学位論文の表紙の作成例（図1（p.4）参照）

5) 学位論文の要旨

2(3)-5) 学位論文の要旨（p.6）に同じ。

6) 履歴書

2(3)-6) 履歴書（p.6）に同じ。

予 備 審 査 申 請 書

平成 年 月 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長 殿

鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程の学位に関する取扱内規第5条第1項の規定に基づき、予備審査に必要な書類を添えて、博士(工学・理学・学術)の学位の予備審査を申請いたします。

・は選択を示し、どちらかを記載する

学位論文題目

分散並列処理システムにおける…(日本語)……………の研究

(Studies on ……………(英 訳)…in Distributed Parallel Process System)

又は

Studies on ……………(英 語)…in Distributed Parallel Process System

(分散並列処理システムにおける…(和 訳)……………の研究)

3年を越えて在学する場合には、各期に専攻ゼミナールを行うこと。また、単位取得後退学した後に、課程博士論文作成への着手の判断を行う場合は専攻ゼミナールに相当するものを行う。この場合、実施日時を事前に公表する必要はないが、博士論文予備審査申請書にその旨を明記する。

大学院理工学研究科
博士後期課程

専 攻

申 請 者 桜 島 一 郎 印

主 指 導 教 員 鹿 児 島 太 郎 印

論 文 目 録

報 告 番 号	理工研 第 号 または 理工論 第 号	氏 名	桜 島 一 郎
<p>学位論文</p> <p>1. 題目 分散並列処理システムにおける・・・(日本語)・・・の研究 (Studies on(英 訳)..... Parallel Process System) 又は Studies on(英 語)..... Parallel Process System (分散並列処理システムにおける・・・(和 訳)・・・の研究)</p> <p>2. 冊数 1</p> <p>3. 主論文</p> <p>(a) (1) 著 者 桜島一郎、鹿児島太郎 [(注) 全著者名を記入する。以下同様] 論文題目 「分散並列処理システムにおける・・・(日本語)・・・の研究 」 [西暦で記入]0000年3月 学会論文集、第80巻、第3号、pp.15-22 . (第 2 章) (1') 著 者 Ichiro Sakurajima and Taro Kagoshima 論文題目 「Studies on Speeding・(外国語)..... Parallel Process System」 0000年2月 J. , Vol.30 , No.5 , pp.30-37 (第 2 章)</p> <p>(b) (1) 著 者 Ichiro Sakurajima and Taro Kagoshima 論文題目 「 英語 (外国語) 」 Letters , Vol.30 , No.5 , pp.20-21 (第 5 章) (..... 年 月 日掲載決定通知受領)</p> <p>(c) (1) 著 者 Ichiro Sakurajima , Taro Kagoshima and Jiro Satsuma 論文題目 「 英語 (外国語) 」 0000年2月 Proc. (London) , Vol.2 , pp.10-17 (第 3 章)</p> <p>(d) (1) 全著者名 桜島一郎、鹿児島太郎 論文題目 「 日 本 語 」 0000年9月 鹿児島大学工学部研究報告、第40号、pp.25-32 (第 4 章)</p> <p>(e) (1) 著 者 桜島一郎、鹿児島太郎 論文題目 「 日 本 語 」 学会論文集 (投稿中、 年 月 日論文受付)</p> <p>参考論文</p> <p>(a) (1) 著 者 薩摩次郎、鹿児島太郎、桜島一郎 論文題目 「 日 本 語 」 0000年5月 学会論文集、第80巻、第5号、pp.36-40 .</p> <p>平成 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">氏 名 桜 島 一 郎 印</p>			

は申請者記載不要

学 位 論 文 の 要 旨	
氏 名	桜 島 一 郎
学位論文題目	ニューラルネットワークを……（日 本 語）……の研究
<p>本論文は、……</p> <p>……をまとめたものである。</p> <p>第1章は、……</p> <p>……</p> <p>……</p> <p>第2章は、……</p> <p>……</p> <p>……について</p> <p>検討した。</p> <p>第3章は、……</p> <p>……の理</p> <p>論を実証した。</p>	

第4章は、.....
.....
.....

.....について
考察した。

第5章は、.....
.....
.....

.....について
考察した。

第6章は、.....
.....
.....

.....
.....
.....を総括した。

Summary of Doctoral Dissertation

Title of Doctoral Dissertation :

Stochastic Response of
Earthquake Interaction

Name : **Sakurajima Ichiro**

This thesis mainly comprises
the wave
.....
.....

Chapter 1 gives
the hydrodynamic
.....
.....

The dynamic response
wave is investigated in Chapter 2. The governing equation of motion is
.....
.....
.....

Chapter 3 also discussed
.....
.....
.....

In Chapter 4, Seismic response
.....
.....
.....

Chapter 5 presents a comprehensive analysis
.....
.....
.....

In Chapter 6, the results of this study were summarized .

学 位 授 与 申 請 書

平成 年 月 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長 殿

鹿児島大学学位規則第7条第2項の規定に基づき、学位論文の審査に必要な書類を添えて、博士（工学・理学・学術）の学位の授与を申請いたします。

・は選択を示し、どちらかを記載する

学位論文題目

海洋構造物の ……………（日本語）……………研究

（ Dynamic Safety ……………（英 訳）……………of Offshore Structure ）

又は

Dynamic Safety ……………（英 語）……………of Offshore Structure

（ 海洋構造物の ……………（和 訳）……………研究 ）

大学院理工学研究科

博士後期課程

専攻

申 請 者 桜 島 一 郎 印

主 指 導 教 員 鹿 児 島 太 郎 印

学 位 授 与 申 請 書

平成 年 月 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長 殿

鹿児島大学学位規則第 7 条第 4 項の規定に基づき、学位論文の審査に必要な書類を添えて、博士（工学・理学・学術）の学位の授与を申請いたします。

・は選択を示し、どちらかを記載する

学位論文題目

超伝導薄膜に対する……………(日本語)……………の観測

(Effect of Buffer ……………(英 訳) in Superconducting Thin Films)

又は

Effect of Buffer ……………(英 語) in Superconducting Thin Films

(超伝導薄膜に対する……………(和 訳)……………の観測)

大学院理工学研究科
博士後期課程

専攻

申 請 者 桜 島 一 郎 印

主 指 導 教 員 鹿 児 島 太 郎 印

履 歴 書

報告番号	理工研第 号 (または、理工論第 号)		
ふりがな 氏名 生年月日	さくらじま いち ろう 桜 島 一 郎 1983年10月12日生	性 別	男・女
本籍	鹿児島県		
住所	〒890 - 0065 鹿児島市郡元一丁目21番41号		
学 歴			
20 年 3月	大学 学部卒業		
年 月	大学大学院 研究科博士前期課程	専攻入学又	
	は進学		
年 月	同上修了		
年 月	大学大学院 研究科博士後期課程	専攻入学又	
	は進学		
年 月	同上修了見込み又は同上単位取得の上退学		
職 歴			
20 年 4月	株式会社入社		
年 月	同上退職		
年 月	省 研究所入所		
	現在に至る		
研 究 歴			
20 年 10月	株式会社中央研究所にて「	の研究」に従事	
	(年 月まで)		
年 月	省 研究所にて「	の研究」に従事	
	現在に至る		
上記のとおり相違ありません。			
平成 年 月 日			
氏 名 桜 島 一 郎 印			

は申請者記載不要

予 備 審 査 申 請 書

平成 年 月 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長 殿

鹿児島大学大学院理工学研究科博士後期課程の学位に関する取扱内規第5条第3項の規定に基づき、予備審査に必要な書類を添えて、博士(工学・理学・学術)の学位の予備審査を申請いたします。

・は選択を示し、どちらかを記載する

学位論文題目

生体活性……………(日本語)……………ハイドロゲルに関する研究

(Studies on Biofunctional Hydrogels・(英 訳)……………with Bioactive Molecules)

又は

Studies on Biofunctional Hydrogels・(英 語)……………with Bioactive Molecules

(生体活性……………(和 訳)……………ハイドロゲルに関する研究)

申 請 者 桜 島 一 郎 印

世 話 教 員 鹿 児 島 太 郎 印

学 位 授 与 申 請 書

平成 年 月 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長 殿

鹿児島大学学位規則第7条第3項の規定に基づき、学位論文の審査に必要な書類を添えて、博士(工学・理学・学術)の学位の授与を申請いたします。

・は選択を示し、どちらかを記載する

学位論文題目

生体活性……………(日本語)……………ハイドロゲルに関する研究

(Studies on Biofunctional Hydrogels…(英 訳)……………with Bioactive Molecules)

又は

Studies on Biofunctional Hydrogels…(英 語)……………with Bioactive Molecules

(生体活性……………(和 訳)……………ハイドロゲルに関する研究)

申 請 者 桜 島 一 郎 印

世 話 教 員 鹿 児 島 太 郎 印

個人調査書

(平成 年 月 日現在)

ふりがな 氏名		性別	男 女	本籍地 又は国籍	
生年月日 (年齢)	年 月 日 (歳)	現住所			
学 歴	. .				
				
職 歴	. .				
				
学会活動等 (期間・ 名称等)					
主論文					
在学期間	(在学期間) 平成 年 月 ~ 平成 年 月 (休学期間 . . ~ . .)		(在学年数: -) 年 ヶ月		
修得単位数	既修得単位 単位		修得予定単位 単位		

(注) 学歴は、大学以上を記載すること。

主論文の別刷又はコピー(当該学会誌の編集規則等、査読付き論文であることが、判断できる書類を添付する。)

推 薦 書

平成 年 月 日

鹿児島大学大学院理工学研究科長 殿

博士後期課程 専攻 年生
早期修了希望者

推 薦 者

推薦理由

指導教員グループ

主指導教員

印

副指導教員

印

副指導教員

印

副指導教員

印